

○ タ イ ト ル : ご家族のための がん患者さんとご家族をつなぐ在宅療養ガイド
研修会 in 沖縄 2016

アンケート

○ 日 時 : 2016年2月14日(日)13:00~17:30(開場 12:30)

○ 会 場 : 沖縄県医師会館3階大ホール
沖縄県南風原町字新川218-9

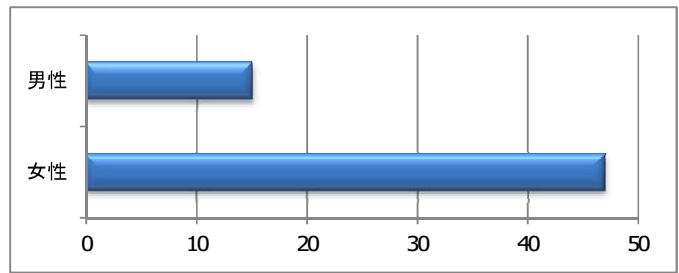
○ 対 象 : 沖縄県内で在宅医療に関わる医療・介護・看護・福祉・行政職、がん患者さんの在宅療養支援に関わっている方。

○ 開 催 概 要 : がんを患った方とご家族が、その人らしい生活を維持しながら、自宅や施設などの身近な場所で過ごすための仕組みをつくりあげるとき、医療・介護・看護・福祉の幅広い職種で、患者さんやご家族の想いに寄り添いながら議論する事が大切です。このたび、がん患者さんの在宅療養を支えるガイドが作成されました。沖縄県の在宅療養を支える専門職が一堂に会し、「がん患者さんが希望する場所で最期まで過ごすことのできる仕組みづくり」の実現に向けて、療養する患者さんとご家族を支える情報の共有と連携の必要性について話し合います。

○ アンケート回収数 : 62

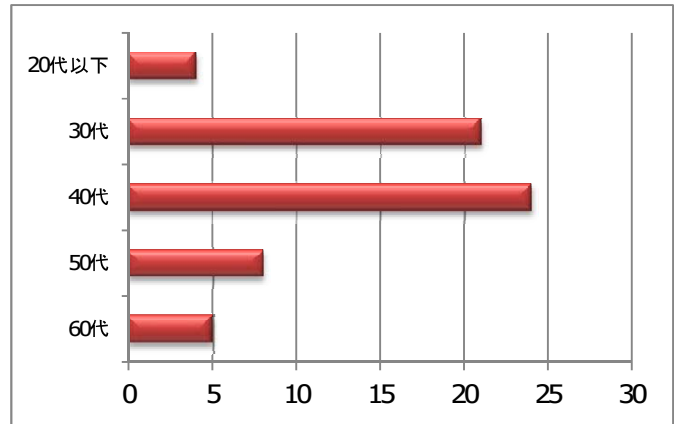
■性別を教えてください。

	回答数	比率
男性	15	24.2%
女性	47	75.8%
合計	62	100.0%



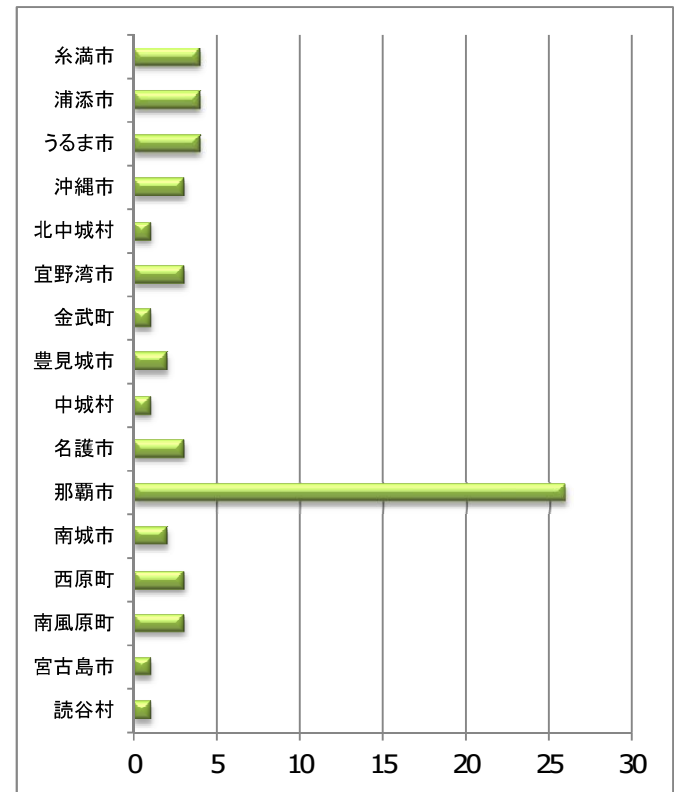
■年代をお選びください。

	回答数	比率
20代以下	4	6.5%
30代	21	33.9%
40代	24	38.7%
50代	8	12.9%
60代	5	8.1%
合計	62	100.0%



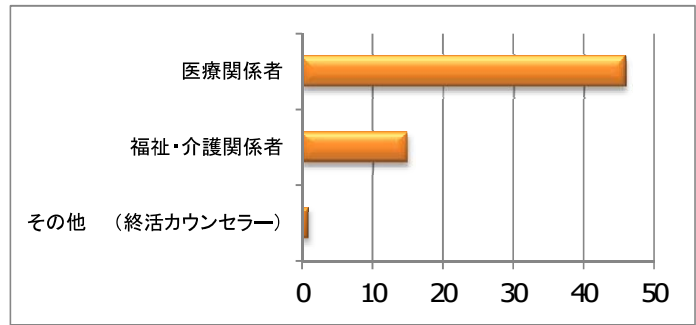
■お住まいの市町村を教えてください。

	回答数	比率
糸満市	4	6.5%
浦添市	4	6.5%
うるま市	4	6.5%
沖縄市	3	4.8%
北中城村	1	1.6%
宜野湾市	3	4.8%
金武町	1	1.6%
豊見城市	2	3.2%
中城村	1	1.6%
名護市	3	4.8%
那覇市	26	41.9%
南城市	2	3.2%
西原町	3	4.8%
南風原町	3	4.8%
宮古島市	1	1.6%
読谷村	1	1.6%
合計	62	100.0%



■職種をお聞かせ下さい。

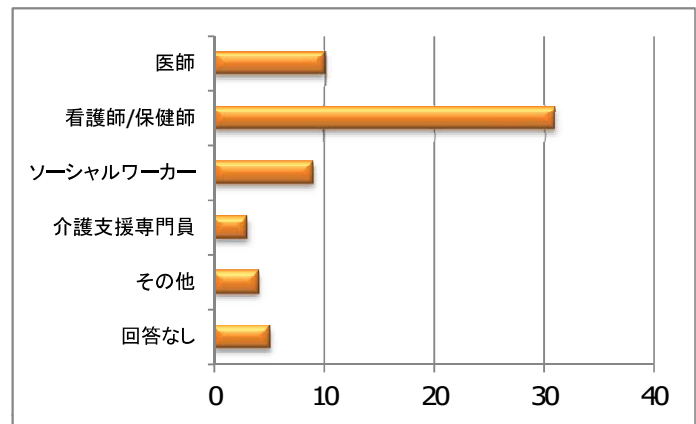
	回答数	比率
医療関係者	46	74.2%
福祉・介護関係者	15	24.2%
その他（終活カウンセラー）	1	1.6%
合計	62	100.0%



■上記で医療関係者および福祉・介護関係者に チェックされた方にお尋ねします。

職種・専門分野をお聞かせください。

	回答数	比率
医師	10	16.1%
看護師/保健師	31	50.0%
ソーシャルワーカー	9	14.5%
介護支援専門員	3	4.8%
その他	4	6.5%
回答なし	5	8.1%
回答者数	62	100.0%

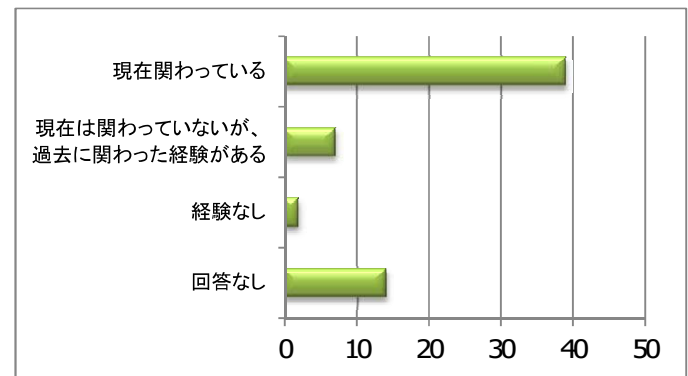


職種・専門分野で「その他」とご回答の記入内容

	回答数
理学療法士	1
地域包括支援センター	2
言語聴覚士	1
合計	4

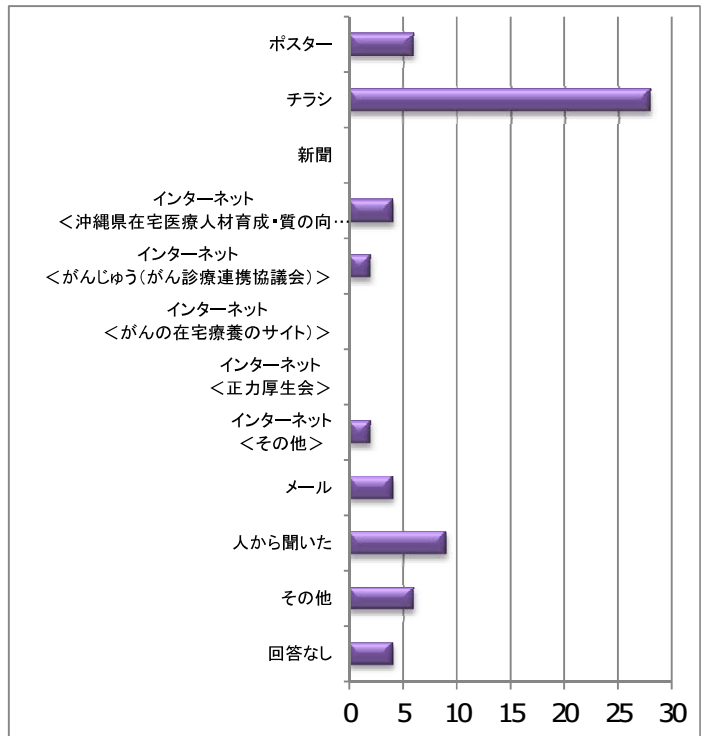
がん患者さんやご家族等に対する相談支援に関わったご経験をお聞かせください。

	回答数	比率
現在関わっている	39	62.9%
現在は関わっていないが、過去に関わった経験がある	7	11.3%
経験なし	2	3.2%
回答なし	14	22.6%
合計	62	100.0%



■本日の研修会をどこで知りましたか。

	回答数	比率
ポスター	6	9.7%
チラシ	28	45.2%
新聞	0	0.0%
インターネット ＜沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター＞	4	6.5%
インターネット ＜がんじゅう(がん診療連携協議会)＞	2	3.2%
インターネット ＜がんの在宅療養のサイト＞	0	0.0%
インターネット ＜正力厚生会＞	0	0.0%
インターネット ＜その他＞	2	3.2%
メール	4	6.5%
人から聞いた	9	14.5%
その他	6	9.7%
回答なし	4	6.5%
回答者数	62	
回答数	65	



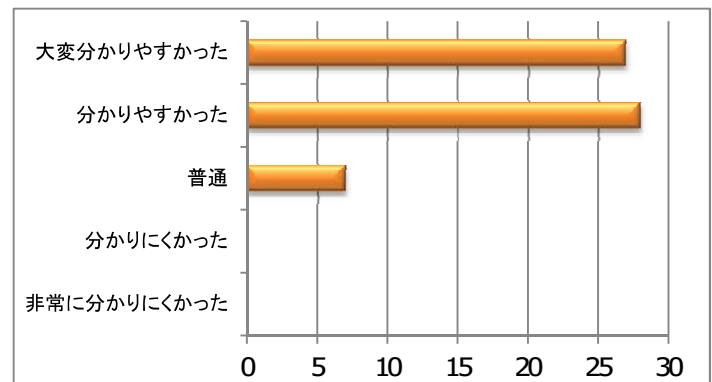
※上記の比率は回答者数に対する比率です。

■「人から聞いた」とご回答の具体的な記入内容

	回答数
職場の上司	1
病院の先生	1
主催者のメンバーより情報提供	1

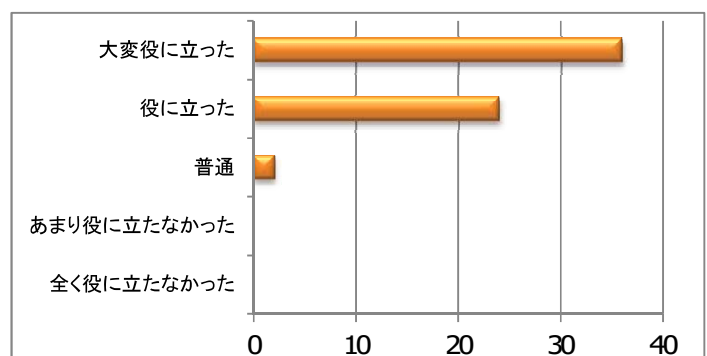
研修会の「内容」は分かりやすかったですか。

	回答数	比率
大変分かりやすかった	27	43.5%
分かりやすかった	28	45.2%
普通	7	11.3%
分かりにくかった	0	0.0%
非常に分かりにくかった	0	0.0%
合計	62	100.0%



研修会の「内容」は役に立ちましたか。

	回答数	比率
大変役に立った	36	58.1%
役に立った	24	38.7%
普通	2	3.2%
あまり役に立たなかった	0	0.0%
全く役に立たなかった	0	0.0%
合計	62	100.0%



【ご意見・ご感想】
5.「大変役に立った」とご回答された方の記入内容
癌の利用者に関わり始めたところなのでとても勉強になりました。他者の考えも聞けて良かったです。
まだまだ勉強中の身にとっても勉強になりました。病棟勤務の中では在宅の様子が見えないので、今後の参考になります。
各参加メンバーの職域毎の実体験を基にしたディスカッションができて大変よかったです。
病棟で看護師をしています。今回在宅で患者さんを支える皆さまの熱意に大変感動しました。
むずかしいテーマ、内容なので一つ一つのグループディスカッションにも少し時間が取れると良いかと思いました。半日ではなく1日研修にして休憩をしっかり取れるようにして欲しいです。具体的な事例に基づいてワーク出来たら良かった。他職種、色々な立場からの意見が聞けてとても参考になった。また参加したいと思います。ありがとうございました。より良い支援をしていく為にもっと勉強しないといけないと感じました。
事例をまじえながらのお話はすごく色々気づくことが出来たり、再確認する事もできて有意義な時間でした。ありがとうございました。
意思決定からグリーフケアまで、その時期のテーマについて様々な議論ができ、大変勉強になりました。自分自身のグリーフケアについて、あまり考えてみた事がなかったので、自分自身を振り返る機会にもなりました。
現在、本人と家族の気持ちが異なり困っている。でも本日のグループワークで、多職種や、別の家族をまじえて話をしようと意見をもらった。良い機会になった。
<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議で、様々な職種の方がおられたので、施設での看取り支援、在宅での療養、看取り支援の現状、課題について知る事が出来てとても有意義でした。 ・情報量(質)の格差によって「いい看取りが出来る」「いい最期を迎えられる」等に、差が出てはいけないと思うので、ケアする側の責任は大きいと思います。
多くの方の経験やお話をきいて、大切な情報や今後に活かしていける内容を得ることができました。後日、スタッフへ共有していきたいと思います。
研修を継続して行って欲しいです。いろいろ情報交換ができて良かったです。
がんという背景を背負った患者・家族のみならず、人が生きていく上で、死へ向かっていく存在である、という前提は誰にもあてはまることだと思っています。ただ、具体的にどういう経過をたどるのかを知る場、学ぶ場が今の日本では少ないなと思っていましたので、だからこそ今回頂いたような在宅療養ガイドの登場は、出るべくしてでたものと喜んで、現場での活かし方を工夫したいと考えています。
いろいろな意見や現場での話がきけてとても勉強になりました。在宅での看取りを行う上で、在宅療養ガイドの本を活用していきます。ありがとうございました。
とても勉強になり楽しく過ごすことができ、長時間でしたが苦痛はなかったです。多職種の意見・情報も聞くことができ良かったです。同じ沖縄でも行政のかかわりに温度差があること、地域性を感じました。
クリニックでの訪問診療が始まり、先生がほとんど一人で診療に対応している中、在宅医療の現在を知る事ができ、大変勉強になりました。患者さんや家族の不安や心配は、外側のささえる医療者が不安、心配をはずしていく関係づくりが大切だと思いました。何より、私自身が心をひらいて、かかわりをもっていきたいと感じました。ありがとうございました。
在宅療養に関する勉強会に初めて参加させて頂きました。とても分かりやすく楽しく勉強でき、有難うございます。グループでディスカッションし楽しい時間でした。今後の看護にいかせれる様、頑張ります。
実際に在宅療養に関わっておられる方々の、経験を交えたお話を聞いたことが良かった。県内で在宅療養をされている方と顔が見える関係づくりが出来たことが良かった。
多職種でのグループワークで、それぞれの立場の意見を聞くことができ大変勉強になった。
参加して本当によかった。ありがとうございました。ご本人、ご家族様の良き「杖」でありたいと思った。冊子がわかりやすくてとてもよかった。熱心に編集会議をしていらっしゃるのだろうなと感じた。
在宅でがんの患者さんが療養を行っていくには、多職種の情報を伝えていき、患者さんが自分らしい生活をしていけるようサポートする必要があることがわかりました。病状の時期ごとに必要な情報が異なる事も知り、勉強になりました。ただ、その情報の提供の仕方(口頭だけでなくSNS、コミュニケーションノート等)やタイミングなどが実際行うと難しそうだなと思いました。情報を伝えないといけない、ではなく、あくまで患者さんとの対話の中で必要な情報を適宜伝えられたらいいなと思いました。
多職種でのディスカッションでとても参考になった。がんサポートハンドブックと在宅療養ガイドをリンクさせたらいいと思う。
福祉畑はやはり、医療職の方との話がしづらいことが多くありますが、今日の研修では、ケアマネも重要なポストにあると発言してくれた河原先生や、同グループの医師2人も同意見だと話してくれたことが、壁が低くなった、自信に繋がりました。今後はこのような医師と直接、会話ができる研修があれば参加を増やしていきたいと思います。
多くの患者さん家族は自宅で過ごしたいと思っていたり、その気持ちをくんで支援したいと思う医療・介護・福祉スタッフにとってもこのガイドブックはとても参考になると思います。そして、患者さんが安心して、最期まで自宅で過ごせるよう、具体的な内容はわかりやすく、イメージしやすく、お別れの時期のことなど、向き合うには怖いけど、考えるきっかけにもなります。ガイドブックに沿った研修は、他職種の意見もきくことができ良かったですありがとうございました。
重たいテーマですが、日々の仕事の中でさけて通れない場面もありますので、各職種の方の意見・想いをきかせて頂いたのはとても良かったと思います。この様な機会を与えて頂き感謝です。ありがとうございました。

多職種でグループワークし、情報共有できたので良かったです。
ワークショップの内容と進行もとても良く、有意義な研修でした。ありがとうございます。ここで得た知識や情報を持ち帰って、職場や在宅チーム、関係者の方々と勉強会や、情報共有が必要だと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療、福祉、介護が連携して、充実した在宅での生活～看取りまで繋がっていけるように、もっとこういったグループワークを開催してほしい。 とてもいろんな立場の現状が見えたので良い研修になった。 患者で家族側に立って考えているつもりでも伝える情報については医療者側の視点が多いことに気がきました。

4.「役に立った」とご回答された方の記入内容

<ul style="list-style-type: none"> 多職種が集まり、皆で情報共有することで、具体的な場面がイメージ出来たり、学ぶことが多くあった。情報を共有することからはじまることを実感した。 在宅に対して取り組みを積極的にしている。北部の地域包括の働きが先駆的であると感じた。今後モデル事業としての働きの発表などを希望する。 全ての職種が「自分だったらどうしてほしいのか」その人の気持ちになってチームが向かうことが大切であると思った。
連携より専門職の流れが主な内容になってしまいがちで、寄り添う支援といった考え方がうすい様な気がしました。
様々な職種の方のお話が聞けて今後のケアのひとつにつながった。
講演内容は良かったと思いますが、講演内容とガイドブックの内容との関連がいまひとつつかみにくいと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> 本人と家族のための良き伴走者であること その時々希望と不安に寄り添い、協力して向き合えるよう支援するチームメイトを多く持つこと 一市民として、自分や家族が受けたい支援を目指すこと 改めて考えることができました。
チームという意識がまだあいまいであること(自分が)、皆さんまだ手探りでやっていること(自分も含め)がまず共有理解する事ができたのが、一番の収穫でした。つまり、スタートラインに立つことが出来ました。これからチームを意識して、実臨床の中で、様々なチャレンジをガイドを水先案内人にやっていきたいと思います。
在宅診療がコンパクトにまとめられよかったです。
在宅看護の仕事に就いたばかりだったので、在宅医療の現状や関わる方々の声を聞くことができて良かったと思います。様々な職種の方が講演をされていたので、色々な角度から在宅医療をみる(知る)ことができました。
各職種の現状、意見を聞くことができ、勉強になりました。よりよいケアが提供できるよう、日々の仕事で活かしていきたいと思いません。
おきなわがんサポートハンドブックは、職場でみたことがあったのですが、実際活用はされていなかったように思います。たくさんのお思いが入った冊子をきちんとご家族・ご本人につなげられるようにしなければと思いました。
多職種、他施設の方々と意見交換することで、悩んでいる事が一緒だということがわかり良かったです。冊子を渡すタイミングを病院の先生(医師)が知っていただければ良いかなと思いました。
他職種の経験も聞けて勉強になりました。命を死を大切に取組まれている医師や他職種がいることで心強く思いました。今後とも自分のできる関わりで、学んで行きたいと思いました。本当にありがとうございました。
今日はありがとうございます。今後、同様の研修も参加させていただきます。宜しくお願いします。
地域の方と話せる機会は貴重でした。
情報の共有化、各職種の連携の重要性をあらためて感じた。メンバーの意見もだいが参考になり、今後の現場にいかしたい。
本日もらった資料を今後役に立てていきたいと思いません。

9.本日の研修会でもっと詳しく知りたかった点や議論したかった点、お感じになったことなどをご自由にお書きください。にご回答された方の記入内容

在宅への情報提供の基本範囲。必要な情報とは。

在宅医療にたずさわる訪看やDrが多く参加されていて、行政(地域)が少ないのが気になりました。国・県も医療介護連携で「地域包括ケアシステム」と言葉だけが先行し、地域の覚悟はどうか!? 本人・家族だけの問題だけになっているのは残念です。

一般の方向けの「死の教育」の必要性について論議できる機会があれば良かったです。

いろいろな立場の方の話を聞けたことがとても良かったです。ワークショップでの席の作り方、ふりわけ、大変だったと思いますが、それぞれの専門分野の話が一番の学びになりました。ありがとうございました。

グループによるリレートーク方式だったので、議論し易く、楽しい研修会でした。企画の内容もとても良かったです。おつかれさまでした。

今後の在宅で療養される患者数の予想推移など情報あれば良かったなと思いました。

どのテーマも深いものがあり、議論する時間が短かったのが残念でした。その中でも、他職種や他病院が工夫していることなど実践していることがきけて、良かったです。

在宅医療(特にがん末期)の推進への一番の障害は、家族が、無理な医療をしない自然な死を受け入れられないことではないでしょうか。その辺りを家族に認識していただくような取り組みが大切ではないでしょうか。

日時を変えれば、申し込みたい方が多かったと思います。参加人数制限があることが残念でした。

他職種の参加者の意見をきいて、同じような悩みや考えを持っていることに安心感が得られました。また、違った視点の話がきけて視野が広がりました。

・河原先生の岡部医院での事例や実践をもっとたくさん聞きたかったです。
・いつでも入院できる「バックベッド」が保障されれば、多くの方が自宅を望むが、実際の運用はうまくいっているのでしょうか？

多職種のグループワークということで、自分では持ちえない視点からの話をたくさん聞くことが出来、勉強になりました。またファシリテーターの先生方がいることで発言もとてもしやすかったです。

在宅ターミナルという、短い時間での医療者と患者さんの関係性の構築が、一番難しいところです。もう少し、テーマを絞って、皆さんでディスカッションの時間を十分取って、行き着くところを見てみたかった気がします。

エンドレスであることが認識できたので、今後もストレスを持たず、在宅医療や、介護等をやっていきたい。ただし課題は山積しているが。

先生が退院時カンファレンスに出席する事を大切にしていること。患者さんの家族との会話を大切にする。もっと気楽に在宅に出来る環境作りは本当に大切だと思いました。ほとんど訪問に関わる事がないのですが、大変意味深い研修になりました。

・病院から在宅へつなぐ時、在宅につながった時、看取りの段階、と各プロセスをそれぞれの事例も含め聞ければもっと良かったなと思いました。

・河原Drのお話ももっともっと具体的に聞きたかったです。
・内容が広く浅すぎた気もしました。それくらい在宅に奥深いんだなと思います。

診療報酬に結び付けた内容があっても良かったのではないかな? 在宅で使用する医療材料を提供する内容が個々のDrにより違いがあります。統一は難しいと思いますが、ある程度の提示ができないのかなと思います。

沖縄県民全体におきなわがんサポートハンドブックや在宅療養ガイドの内容や存在が「知っているのがみんな普通」レベルまでいって欲しいなと感じました。

各職種のできること、役割が少し理解できました。チーム連携の作り方、連携の取り方などをもっと知りたいです。ぜひ、今後の研修会にも参加させて頂けると有りがたいです。

活用方法(ガイドの)で、具体的に「どんな時に手渡した」「こんな時に第〇章を説明した」とか利用の仕方が知りたいです。

医師との関係性が風通しが良くなると、在宅にて、最期を過ごしたいという利用者さんを担当していくことも消極的にならずに担当していけると思います。

ディスカッションの時間がもう少しあっても良かったかなと思いました。

今日の研修、グループワークで話し合う点は、有意義で深まるので良かったのですが、うまく行えている方法を(例えば第4章、支援している自分の悲嘆ケアをどうしているかetc)提示していただくと、すごく参考になったと思います。

市民へ在宅医療～看取りをどう伝えていくのか、課題が大きいことを改めて感じた。

10.「地域における緩和ケアと療養支援情報 普及と活用プロジェクト」についてお尋ねします。プロジェクトでは、「がん患者さんとご家族のための在宅療養ガイド」の地域への普及と活用を目指しています。在宅療養ガイドをご覧になった感想、療養支援に必要な情報について、ご意見やご提案をお寄せください。

•とても読みやすく、わかりやすい内容であり、親しみやすかった。また、日ごろの援助を言語化して下さっていることなど、自身の働きの確認をすることにも役立ちました。
•支援者側が読み込み、提案できるようにしていきたい。

介護保険メインですが難病等、障害・福祉サービスの専門職が参加していないのが気になります。

医療情報は患者やその家族の能力によって取得格差があるので、こういった情報提供がもっと広く認知されるとよいと感じました。

ひとりでも多くの医療関係者の目にふれるように広報するのは難しいと思う。まずは口コミから出来ると思うので、積極的に広められたらと考える。

がんサポートハンドブックのようにあちこちで手に取れると良いと思います。

職員向けの在宅看取りケアの教育の材料としてまず活用していきたいと思っています。

対話形式でイラストも入っており、字もよみやすくとても良いと思います。早く広まるとういなどと思います。

とてもわかりやすく、読みやすいと思います。ふと思ったり、悩んだりした時に、何度でも手にとって見る事ができるので、患者さんやご家族にとっても安心材料になると思いました。また、支援者としても、意外と知らなかったことや忘れていたことを振り返ることができる一冊だと感じました。ご家族の体験談があるのも良いと思いました。

大変役に立つと感じた。地域で在宅支援する関係者だけではなく、病院にも置いたり、看護師にも見せたい。

読みやすく良い本だと思います。

•このような情報について、一般向けに広く周知していくことが大切だと思います。
•がんサポートハンドブックのように、どこの在宅クリニック、病院、訪問看護ステーション等でも手に入るように行き渡るとよいかと思いました。
•体験談が入っているのは、とても参考になると思います。

とても素晴らしい内容で、しっかりもう一度読み直し、クリニックでも役立てていきたいです。

ボリュームがある内容で、患者や家族がいつ読めるか？というのが疑問です。最近ではご家族がいない方も多いです。その場合…？情報の使い方が課題ですね。

充実の内容なので情報提供する側としてしっかり読みこんでおくことが必要だなと思っています。頑張って勉強します。

告知されている方には本人の様子を見ながら本の紹介はできるが、告知されていない方には、本の紹介は難しいと思いました。

とても分かりやすく役に立ちます。活用したいと思いました。

やはり共通の情報を持つことが必要か。

大変読みやすく、訪問にかかわりない医療者も必要な情報だと感じました。まずそういう方に広く読んで頂きたい。

とても見やすいです。可愛いイラスト入りで親しみやすい。

文字数が多いなと思いました。このデータ量をどれだけの方が冷静に読んで理解できるのかな、と。内容(特に大事なことetc)を凝縮した簡易パンフを作るetc、目で見えてわかる内容もあればなと思います。あとは、各章をそれぞれの冊子にして、その都度そのタイミングの方に必要な章をわたせるようなのだと、わたし側のプレッシャーが少し軽減されるのでは？

読みやすい文章で、わかりやすい内容と感じました。

冊子について「もしも」シリーズがあったらいいなと思いました。一般の方だれでも手に取りやすいし、「〇〇になったら」だと重いので、「もしも」シリーズで中身が充実していて予備知識としても使えそうなもの。将来の「心のお守り」になるような冊子があれば置きやすく手に取りやすいのでは？と感じました。・・・が、いろいろと事情があるのかなとも思いました。

分かりやすく見やすくなっているのでも使いやすいと思いました。イメージしにくい在宅療養について参考になると思います。素晴らしいガイドブックを有難うございます。

体験記など多くて分かりやすい。コミュニケーション方法が具体的で実践に活かせやすいと思った。

P124の上段部分「介護保険の自己負担分は1割で・・・」とありますが、現在は2割の方もいるので1～2割という表記が良いと思います。

お別れの時期は治療して退院される時には「はあー」という感じを持たれる方もいらっしゃるかも知れませんが、自分のおかれている立場を再確認するには大変良い冊子かとも思います(家族の為に！)これからも頑張ってください。

支援する様々な職種の方が手に取って読んでもらいたいと思いました。活用していきたいと考えています。

ガイド本は、在宅に関わるスタッフ(ナース、ヘルパーetc)にも参考になる本だと思いました。

専門職それぞれが感じていることや在宅で出来る支援をどう伝えるか、情報提供や周知方法について今後、検討していることがあれば、是非、多職種で共有したい。

- 必要な情報をなるべく一元化することはサポートする側も利用する側も助かるので、トータルの視点からみた冊子があるのはとても有益と思います。
- 地域により資源は違うので地域別の冊子はこれからの時代に必要と思いました。

「これからの在宅医療を支える人のための研修会 ～いっぺー上等なケアカンファレンスを目指して～」 開催について

概要

名 称	これからの在宅医療を支える人のための研修会 ～いっぺー上等なケアカンファレンスを目指して～
日 時	2016年3月6日(日) 13:00～17:30
場 所	那覇市医師会館
参 加 者	医療・介護・看護に関わる専門職、他 45名
主 催	沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター 那覇市医師会 那覇市在宅ケアネット
後 援	一般社団法人沖縄県医師会、公益社団法人沖縄県看護協会、 一般社団法人沖縄県薬剤師会、一般社団法人沖縄県介護支援専門員協会、 一般社団法人沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

プログラム

第 1 部	座長 島袋恭子(那覇市立病院 医療ソーシャルワーカー) 対話し協働し連携する在宅医療を目指して 講師：金城隆展先生 (臨床倫理士、倫理コンサルタント) (琉球大学医学部附属病院地域医療部)
第 2 部	座長 荷川取尚樹(花あかり 介護支援専門員) 実習：グループワーク カード方式でケアカンファレンスをやってみよう

チラシ

これからの在宅医療を支える人のための研修会

～いっぺー上等なケアカンファレンスを目指して～

2016年 3月6日(日) 13:00~17:30

真に患者さんのためになる、ケアに関わる人全てが同じ方向を向いて頑張っていけるようになるためには、一体どうすればよいのでしょうか？
講義とグループワークを通して、ケアカンファレンスをファシリテートできるようなることを目指した研修会です。

概要	対象	医療・介護・看護に関わる専門職	申込方法	1	FAXまたはメールにてお申込み下さい。詳しくはこのチラシの裏面をご覧ください。
	参加費	無料		2	2月29日から、事務局より順次受講可否通知を郵送いたします。
	定員	60名			
	申込	2月19日(金)締切			

プログラム

第1部：座長 島袋幹子（那覇市立病院 医療ソーシャルワーカー）
「対話し協働し連携する在宅医療を目指して」
講師：金城隆彦（琉球大学医学部附属病院地域医療部 臨床倫理士）

第2部：座長 荷川取尚樹（花あかり居宅介護支援事業所 介護支援専門員）
実習：グループワーク
カード式でケアカンファレンスをやってみよう

会場

那覇市医師会館
〒900-0034
那覇市東町26番地1号
那覇市西消防署ワラ



お車でお越しの際は近隣の有料駐車場をご利用いただくか、公共交通機関をご利用ください

主催：沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター／那覇市医師会／那覇市在宅ケアネット
後援：一般社団法人沖縄県医師会、公益社団法人沖縄県看護協会、一般社団法人沖縄県薬剤師会、一般社団法人沖縄県介護支援専門員協会、一般社団法人沖縄県医療ソーシャルワーカー協会（順不同）

参加申込書 2月19日(金) 締切

FAXでのお申込み

お名前 (フリガナ)	
住所	〒 市町村
電話番号	
所属機関	
職名	
経験年数	3年未満・3年以上5年未満・5年以上10年未満・10年以上
年齢	20代・30代・40代・50代・60代～
性別	男性・女性

FAX番号 FAX: 098-895-1497

メールでのお申込み

1. メールの件名に、「在宅医療を支える人のための研修会」と明記して下さい。
2. メールの本文に、上の表の項目すべてを記入して下さい。

メールアドレス motoko@jim.u-ryukyu.ac.jp

お申込み・お問い合わせ先

沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター
(琉球大学医学部附属病院がんセンター内)

TEL: 098-895-1374 FAX: 098-895-1497
住所: 西原町字上原207番地
HP: <http://www.okinawa-zaitakushitu.jp/>

会場の様子



会場の様子



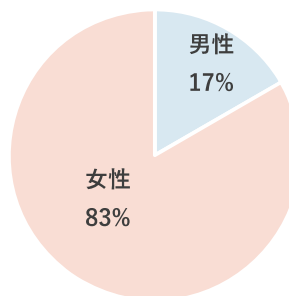
アンケート結果 1

参加者：45名
回収率：プレアンケート 93.3%
ポストアンケート 86.7%

あなたについてお伺いします

問1. 性別

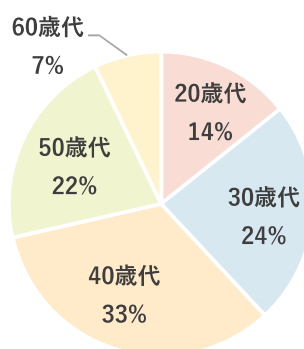
	件数	%
男性	7	16.7%
女性	35	83.3%
合計	42	100.0%



プレアンケートの結果より

問2. 年代

	件数	%
20歳代	6	14.3%
30歳代	10	23.8%
40歳代	14	33.3%
50歳代	9	21.4%
60歳代	3	7.1%
合計	42	100.0%



プレアンケートの結果より

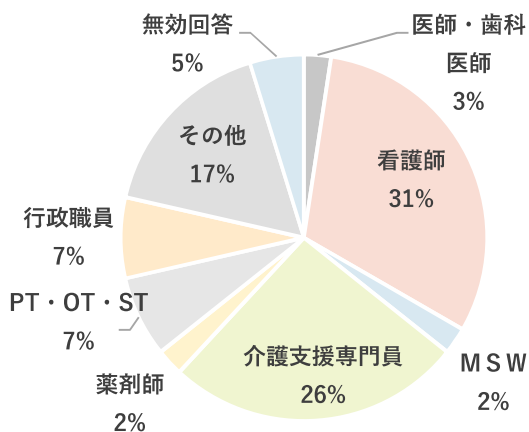
1. 複数回答の質問においては、総回答数を回答者数（n）で割った比率を回答割合として示しているため、合計が100%を超える場合があります。グラフの一部では回答数0（0.0%）を省略しているものがあります
2. 結果数値（%）は、四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

アンケート結果 2

問 3 . 職種

	件数	%
医師・ 歯科医師	1	2.4%
看護師	13	31.0%
M S W	1	2.4%
介護支援専門員	11	26.2%
薬剤師	1	2.4%
PT・ OT・ ST	3	7.1%
行政職員	3	7.1%
その他	7	16.7%
無効回答	2	4.8%
合計	42	100.0%

プレアンケートの結果より



その他詳細

	件数
PSW	1
社会福祉士	1
生活相談員	1
社会福祉士 (包括)	1
大学教員	1
相談員	1
栄養士	1

問 4 . 本日の講演は何で知りましたか？ (複数選択可)

	件数	%
職場へ来たチラシ	25	59.5%
職能団体からの情報	6	14.3%
人からの紹介	2	4.8%
メールでの案内	9	21.4%
合計		100.0%

プレアンケートの結果より

人からの紹介詳細

- ・ 職場のスタッフ
- ・ 那覇市立病院のPT
- ・ がんじゅうネット
- ・ 前回の研修会

アンケート結果 3

あなたの現在の状況についてお伺いします

問 1 . 本日の研修会に参加された動機について教えてください

(複数選択可)

	件数	%
在宅医療」について興味・関心があったから	40	95.2%
本日の講師やプログラムの内容にひかれたから	20	47.6%
参加するよう 誘い・指示があったから	4	9.5%
倫理について悩んでいるから	5	11.9%
コミュニケーションについて悩んでいるから	5	11.9%
ケアカンファレンスについて悩んでいるから	10	23.8%
その他	3	7.1%
合計	87	198.4%

ブレアンケートの結果より

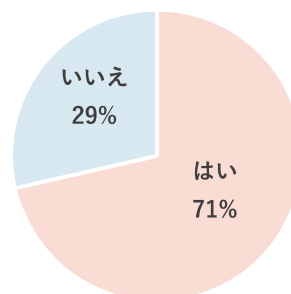
その他詳細

- ・ 一度受講して、すごく新せんな共感が得られたから
- ・ 自身のスキルアップ
- ・ 訪問看護 (在宅医療) の経験が少ないため、知識を深めたい

問 2 . あなたはケアカンファレンスへ参加する事が
ありますか？

	件数	%
はい	30	71.4%
いいえ	12	28.6%
合計	42	100.0%

ブレアンケートの結果より

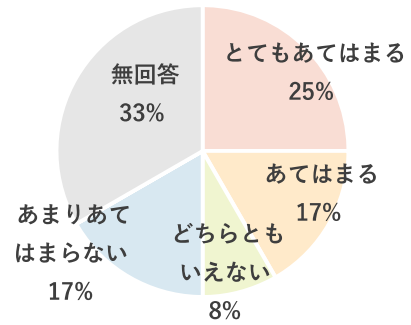


アンケート結果 4

問 3. 「ケアカンファレンスへ参加する事がない」と回答された方にお尋ねします。

あなたはケアカンファレンスへ参加したいと思いますか？

	件数	%
とてもあてはまる	3	25.0%
あてはまる	2	16.7%
どちらともいえない	1	8.3%
あまりあてはまらない	2	16.7%
あてはまらない	0	0.0%
無回答	4	33.3%
合計	12	100.0%



ブレアンケートの結果より

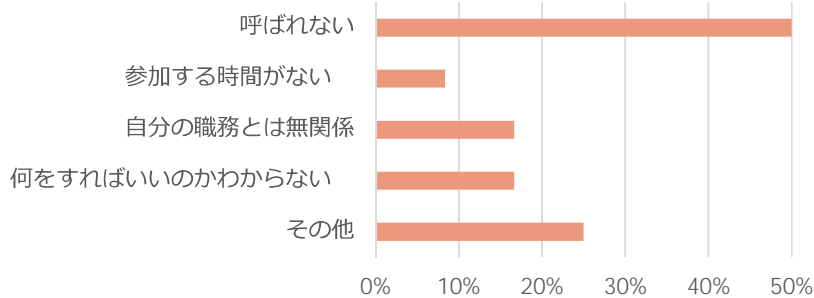
問 4 . 引き続き、「ケアカンファレンスへ参加する事がない」と回答された方

にお尋ねします。ケアカンファレンスへ参加されない理由を教えてください

(複数選択可)

	件数	%
ケアカンファレンスへ呼ばれない	6	50.0%
忙しくて参加する時間がない	1	8.3%
自分の職務とは関係がない	2	16.7%
何をすればいいのかわからない	2	16.7%
その他	3	25.0%
合計	14	116.7%

ブレアンケートの結果より



その他詳細

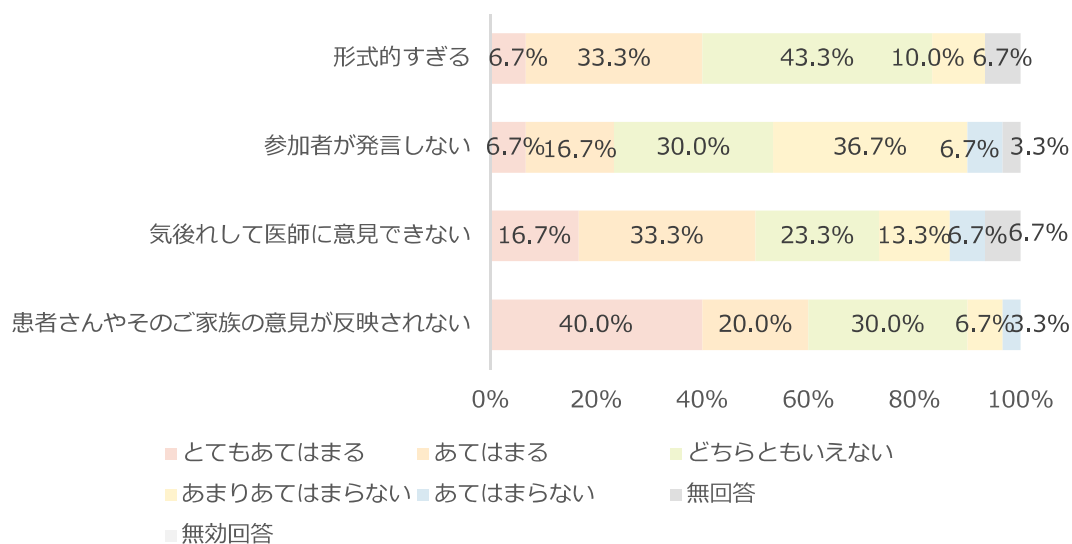
- 個別のケース対応をする業務ではないので
- 参加する機会がそもそもない
- 自部署でケアカンファレンスというめいもくでカンファレンスは行っていない。似たようなカンファレンスはあります

アンケート結果 5

問 5 . 「ケアカンファレンスへ参加する事がある」と回答された方にお尋ねします。
あなたが開催または参加するケアカンファレンスに課題があるとすれば、
どのようなものがありますか？

	とてもあてはまる	あてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答	無効回答	合計
形式的すぎる	2	10	13	3	0	2	0	30
参加者が発言しない	2	5	9	11	2	1	0	30
気後れして 医師に意見できない	5	10	7	4	2	2	0	30
患者さんやそのご家族の 意見が反映されない	12	6	9	2	1	0	0	30

プレアンケートの結果より



アンケート結果6

問6 . 在宅医療・介護・看護を行う上で悩んでいることを教えてください

- 1 ・ 家族の負担が多い、大きい。終末期に医療処置を希望されない方が、終末をむかえる場所が少ない（女性/50代/看護師）
- 2 ・ 病院から退院された（特に重症者）のケアを行ううえで、退院カンファレンスの時に話していた内容と（主治Drとスタッフ）Famiry、本人の意向が違う時、方向性がみえなく困ったりする。又、問い合わせても返答がこなかったりする（女性/30代/看護師）
- 3 ・ 多職との連携（男性/30代/看護師）
- 4 ・ 利用者と家族や周囲の方たちの思いや考えがズレすぎていると方向性が分かりにくい（女性/30代/看護師）
- 5 ・ 各種サービスの決定に時間がかかる・ケアマネが調整を任せようとする・本人の能力を適切に判断できず、過剰・不足な支援になってしまう・各専門職が意見しにくいカンファレンスになることがある（男性/20代/PSW）
- 6 ・ 医療系の職種の方と、介護系、福祉系の職種の方とのコミュニケーションをどのように図っていくか（女性/40代/介護支援専門員）
- 7 ・ 病院の医療スタッフが在宅医療に対する知識が少ない様に思います。特に医療度の高い患者様に対して、「本当に家で看れるの？」という不用意な発言をいまだにされる病院サイドのスタッフもおられ、本人・家族を不安にさせることも未だある様に思います（女性/50代/PT・OT・ST）
- 8 ・ 一度在宅に関わった際、医療を受ける体制をとれない方もいたので。そのフォローのしかたを悩んでいます。自分だけではむずかしく、他の方々との連ケイも時間的にむずかしい事もあるので。大変さを感じています（男性/20代/薬剤師）
- 9 ・ 利用者やご家族の思いをどこまで実現できているか、もっと上手に関わることができないかと思うことがある（女性/40代/介護支援専門員）
- 10 ・ 時間の調整が難しいことがある（女性/50代/医師）
- 11 ・ 行政が関わられることを、現場から声を聞いて知りたいです。予算も今年までと聞くとがっかりです（女性/40代/行政職員）
- 12 ・ 専門職である意識に自信をもってもらいたいです（女性/40代/介護支援専門員）
- 13 ・ 各専門職、本人、家族の意見がなかなか一致せず、いつまでも課題として残ってしまう（女性/40代/介護支援専門員）
- 14 ・ 意見が言いにくい・・・雰囲気のような気がする（女性/30代/社福）
- 15 ・ ①それぞれの考え方が異なるが、全て正しくまちがいでない時何を優先するのか、落としどころはどこなのか悩む②皆が幸せになってほしい③負担をマイナスに考えないように助言したい、言葉表現を選びたい（女性/40代/施設ケアマネ）

アンケート結果 7

-
- 16 ・ 病棟から地域へ継続看護をするために、話し合う機会や取り組みが少なく、どうしたらいいのかが明確でないです（女性/20代/看護師）
-
- 17 ・ 病院スタッフにもう少しケアマネの存在、在宅での介護状況を知ってほしい（興味を持ってほしい！）と感じることが多々あります（特に総合HPなどに対して）＊事前に在宅情報は紙面に届けておりますが活かされていません！？（女性/50代/介護支援専門員）
-
- 18 ・ 医師の思いとズレが生じた時に今後の方向性に悩んでしまう。延命、緩和、胃ろう、治療中断など（女性/40代/看護師）
-
- 19 ・ 予防、再入院防止のための多職種連携が全くといってもいいほど機能していないように感じる。知らないだけと思われるが、多職種連携の成果のようなものを共有できる場や発表する機会を与えてほしい（パーキンソン病の事例など）（男性/30代/PT・OT・ST）
-
- 20 ・ ケアマネという仕事を始めたばかりで、経験がない分これといった大きな問題や課題が今のところありません。今日はいろんな方の体験談から学び、考え、今後に生かしていこうと思いい参加いたしました（女性/40代/介護支援専門員）
-
- 21 ・ 訪問診療医を捜すことが困難：何度かことわられた事がある ・ 訪問診療の基準がわからない（先日研修で明確に教えていただいたが・・・）（女性/60代/介護支援専門員）
-
- 22 ・ ペインコントロール中の患者さんについて、シリンジポンプ（在宅用のレンタルは自費になる？byITIさん）を病院からお貸ししています。診療報酬のことがあまりよくわからないので、在宅医療関係の診療報酬の勉強会があったらいいなと思います。急性期からつなぐ時、医療機器について何がOKで何がNOがよくわかりません（女性/40代/MSW）
-
- 23 ・ 医療面での連携（ケアマネをしてあまりサービスを活用していない）（男性/30代/介護支援専門員）
-

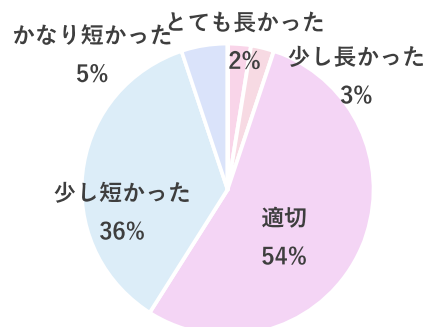
アンケート結果 8

研修についてお伺いします

問 1 . グループワークを行ってあてはまるものを選んでください

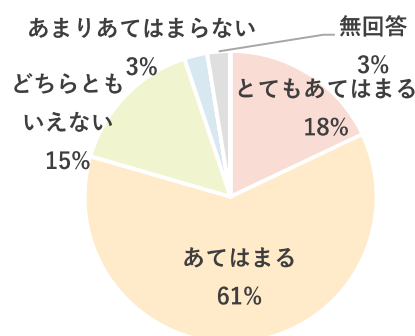
グループワークで討論をする時間は適切でしたか？

	件数	%
とても長かった	1	2.6%
少し長かった	1	2.6%
適切	21	53.8%
少し短かった	14	35.9%
かなり短かった	2	5.1%
無回答	0	0.0%
無効回答	0	0.0%
合計	39	100.0%



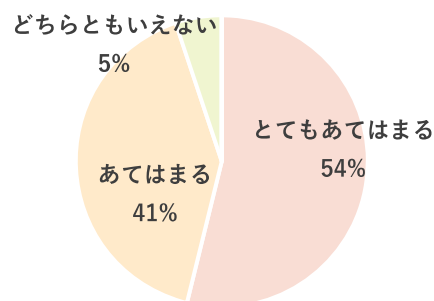
講演で聞いた内容をグループワークで活用できましたか？

	件数	%
とてもあてはまる	7	17.9%
あてはまる	24	61.5%
どちらともいえない	6	15.4%
あまりあてはまらない	1	2.6%
あてはまらない	0	0.0%
無回答	1	2.6%
無効回答	0	0.0%
合計	39	100.0%



グループワークの内容は今後の仕事の改善・向上につながりますか？

	件数	%
とてもあてはまる	21	53.8%
あてはまる	16	41.0%
どちらともいえない	2	5.1%
あまりあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
無効回答	0	0.0%
合計	39	100.0%



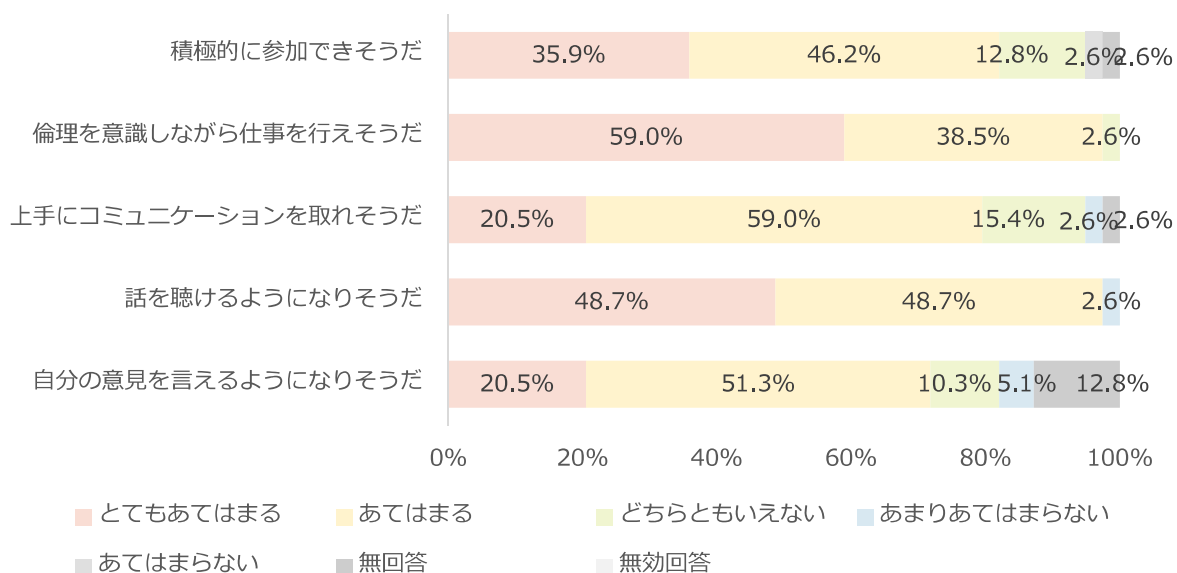
アンケート結果 9

研修についてお伺いします

問 2 . 研修全体を通してあてはまるものを選んでください

	とてもあてはまる	あてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答	無効回答	合計
ケアカンファレンスへ積極的に参加できそうだ	14	18	5	0	1	1	0	39
倫理を意識しながら仕事を行えそうだ	23	15	1	0	0	0	0	39
上手にコミュニケーションを取れそうだ	8	23	6	1	0	1	0	39
他職種や患者さん・患者家族の話を聴けるようになりそうだ	19	19	0	1	0	0	0	39
他職種に自分の意見を言える様になりそうだ	8	20	4	2	0	5	0	39

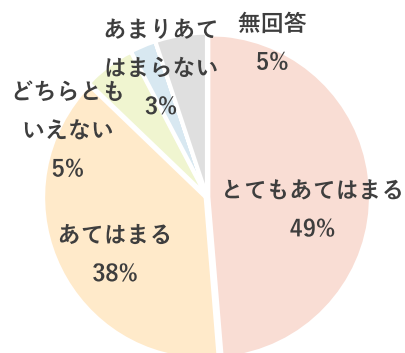
ポストアンケートの結果より



アンケート結果 10

問3 . この研修会への参加を職場の同僚に勧めたいと思いますか？

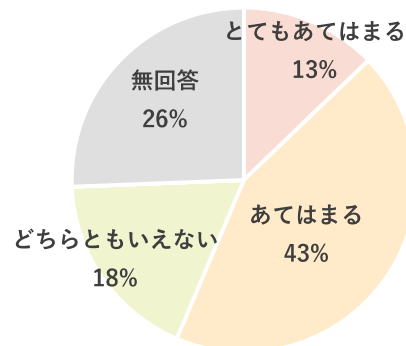
	件数	%
とてもあてはまる	19	48.7%
あてはまる	15	38.5%
どちらともいえない	2	5.1%
あまりあてはまらない	1	2.6%
あてはまらない	0	0.0%
無回答	2	5.1%
無効回答	0	0.0%
合計	39	100.0%



ポストアンケートの結果より

問4 . プリアンケート問6で記入して頂いた「在宅医療・介護・看護を行う上で悩んでいること」や、ご自身の課題を解決するヒントは見つかりましたか？

	件数	%
とてもあてはまる	5	12.8%
あてはまる	17	43.6%
どちらともいえない	7	17.9%
あまりあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%
無回答	10	25.6%
無効回答	0	0.0%
合計	39	100.0%



- 1 . 疑問に感じたことは聞く、その為に最低限の知識や技術を身につけ、配慮を忘れない (男性/20代/PSW)
- 2 . 基本にたちかえられる研修でした。ありがとうございました (女性/30代/相談員)
- 3 . これからいろんな問題に直面していくかと思います。今日の研修はこういう場面場面で支えになってくれそうです (女性/40代/介護支援専門員)
- 4 . プリアンケートでは診療報酬の疑問という倫理とはあまり関係のないことを書きちゃいました・・・ (女性/40代/MSW)
- 5 . しどろ、もどろで????でしたが。金城先生の最後の情報収集とか、連携とはで、一人で悩まず行動すること。声をあげること (女性/60代/栄養士)

アンケート結果 1 1

問 5 . 本日の研修に関するご意見ご感想をお聞かせ下さい

- 1 ・ グループ研修の時間が短かった様に思います（女性/50代/看護師）
- 2 ・ とても楽しかった。しかしカードの形式を理解できず最初はやりにくかった。次回はスムーズにできるようにしたい。します（女性/30代/看護師）
- 3 ・ 患者本人が置き去りにならない事を再確認していく。忘れがちになっていたの。。。 （女性/30代/看護師）
- 4 ・ 患者の意向に沿って計画を組む事が大切であると改めて感じました。質問する意図を考慮していきたいと思います（男性/30代/看護師）
- 5 ・ 支援者、担当者会議に参加した経験が少なかつたため、会議をイメージしたグループワークのすすめ方が少し難しかったです。情報収集の重要性や、利用者本人の背景を軸にして話をしていく事が重要であると思いました。とても学びになりました。ありがとうございました（女性/30代/看護師）
- 6 ・ 参加させていただくと自身の立ち位置の確認が出来て良い。行っている支援を考えながら働いていきたい（男性/20代/PSW）
- 7 ・ とても素晴らしい内容でした。気づき（築き）がとても多く、2回目でしたがさらに良かったです！（女性/40代/介護支援専門員・社会福祉士）
- 8 ・ 専門職だからこそ陥りやすい視点に改めて気づけたのは良かったです（女性/50代/PT・OT・ST）
- 9 ・ 他職種との連ケイをうまくやっていきたいと思いました（男性/20代/薬剤師）
- 10 ・ ”ナラティブ医療のススメ”とても考えさせられました。そして、良かったです（女性/60代/社会福祉士）
- 11 ・ 利用者に寄り添い意思を尊重する事の大切さについて再認識する事ができました。利用者の意思決定を支援できるように努めていきたいと思いました。利用者に招かれて共につむげるようになりたいと思っています（女性/40代/介護支援専門員）
- 12 ・ 行政は会議に呼ばれない理由を考え直します（女性/40代/行政職員）
- 13 ・ 今回初めてグループワークの参加をし、他職種の意見を聞き、いろいろなことを学びました（女性/40代/生活相談員）
- 14 ・ 次回も楽しみにしています。ぜひ続けてほしいですね（女性/40代/介護支援専門員）
- 15 ・ ケアカンファレンスの場が”サービス導入ありき”になっているというのは驚きです。もし本当にそういうことがあればpt本人の意思が尊重されるような人材の育成や勉強会の拡大が必要だと思います（女性/50代/大学教員）
- 16 ・ とても楽しかったです！！（女性/30代/社福）

アンケート結果 1 2

-
- 17 ・介護福祉士会のホームページにUPされていたので知りました。研修の広報活動大切だと思います（女性/40代/施設ケアマネ）
-
- 18 ・本人の意思はどうなのか・・・とても大切なこと。気づかせて下さりありがとうございました（女性/50代/看護師・介護支援専門員）
-
- 19 ・カード式のグループワークは初めての経験でしたが、その後整理しやすいのでよかったと思います・思いこみ、専門職の固定観念で判断してはいけなとあらためて学習できました。ありがとうございました（女性/50代/介護支援専門員）
-
- 20 ・日々、忙しい業務の中で忘れがちだった自分の気持ちや看護観を再確認することができました。本当にありがとうございました！（女性/20代/看護師）
-
- 21 ・とてもいい研修でした。普段の仕事、やっていることを考えるきっかけになったと思います（女性/30代/看護師）
-
- 22 ・2年前にも同じ研修会に参加しました。カード方式ケアカンファのケースが異なれば2度目であっても難しいと感じました。多職種での話し合いができ、いろんな意見が聞けて良かったです（女性/40代/看護師）
-
- 23 ・普段の自分の言動を見つめ直すきっかけになりました（男性/30代/PT・OT・ST）
-
- 24 ・最初とまどう事ばかりでしたが皆さんの意見をききながら「あーそうなんだー」と思う事が多く、勉強になりました。今日参加した事によって自信につながりました（女性/40代/介護支援専門員）
-
- 25 ・情報を集めることの難しさを再確認した。ただ、何が一番大切かではなく、全ての情報は大切だと思う。参加者一人一人が様々な考えを持っていることを知ることができ、自分の考えとの違いを学ぶことができ、良かった（女性/40代/看護師）
-
- 26 ・とても楽しい研修で、とても有意義な時間でした。ありがとうございました。続けていただきたいと思います（女性/60代/介護支援専門員）
-
- 27 ・順番を並べ替える作業では、何に囚われていたから問うべき大事なことが問われなかったのか、（例えば認知症だから判断は難しいのでは、KPは家族関係の中で中心的立場にあるはず、家族会議をしたならその結果がすべてでは、等）思い込みは本人の真の意思に近づけず、現場ではそのような危うさが日々流されているのではという恐ろしさを感じました。それはカード方式だからこそ気づけたことでした。本人の最善に対して違和感を感じる時はこれからも勇気を持って「それってほんとうにそうかな？」と問うことの大切さ、私の職場は幸い他職種の意見を尊重しながら自分の意見を述べられる雰囲気があると思うので、明日からの実践に生かしていきたいと思います（女性/40代/MSW）
-
- 28 ・グループワークをすることで自分がひらめかない考えが出て来る所があり、それが気づきになることで身につくグループワークだったと思う（女性/20代/行政職員）
-
- 29 ・①グループ内に頼れるケア・マネージャーに出あえた②「本人の意思・生き方を支援する」多職種がこんなにあるのだ③チームワーク マニュアル的におち入らない④自分の頭で考える（女性/60代/栄養士）
-

アンケート結果 13

問6 . 今後、企画して欲しい研修があれば教えてください

- 1 ・ 病院側を含めた退院カンファレンスのもちかた（女性/30代/看護師）
- 2 ・ 地域別で行なえればより交流が深まる（テーマはその際に）（男性/20代/PSW）
- 3 ・ 継続してほしいです。事業終了ときいてどうなるのか気になります（女性/40代/介護支援専門員・社会福祉士）
- 4 ・ かんわ医療について（女性/30代/看護師）
- 5 ・ 癌告知について、延命について。やはりまだまだ本人抜きで話が進むことが多い（女性/40代/看護師）
- 6 ・ 多職種連携の成果等をプレゼンさせてもらえるとうれしいです（男性/30代/PT・OT・ST）
- 7 ・ 色々な事業所、他職種の方と接するだけでもとても勉強になります（女性/40代/介護支援専門員）
- 8 ・ やっぱり倫理。何度でも同じ内容でも又受けたいです（病院の医師、看護師対象にも今日のような研修があり院内で多くの医療者の意識が高まれば倫理的問題が起こった場合相談がしやすいな）と思います（女性/40代/MSW）